

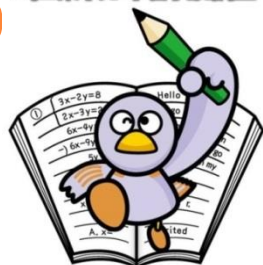
平成29年1月11日

埼玉県学力・学習状況調査について

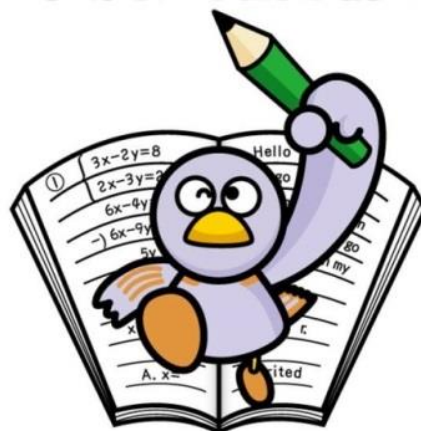
埼玉県学力学習状況調査

埼玉県学力学習状況調査

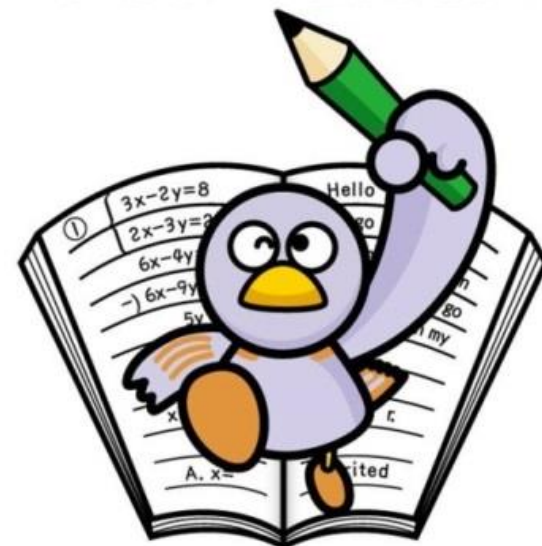
埼玉県学力学習状況調査



コバトン



コバトン



コバトン

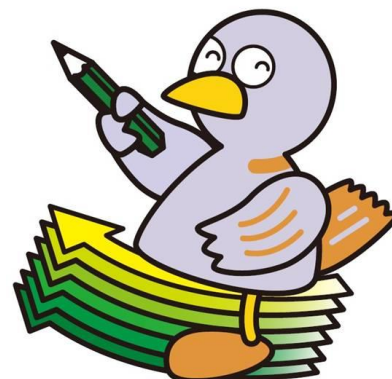
埼玉県教育局市町村支援部

埼玉県学力・学習状況調査について

本日のアウトライン

- 1 概要
- 2 調査結果
- 3 分析
- 4 課題と今後の展望
- 5 おわりに

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン

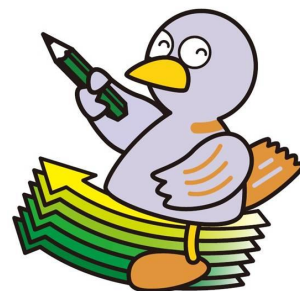


1 概要 (1)調査の目的

- ・「各教育委員会の施策や各学校の指導」と、
- ・「子供たちの学力の伸び」

の関係を客観的なデータに基づいて分析し、より効果的な施策や指導を全県で共有することで、本県の子供たち一人一人の学力をしっかりと伸ばそうとするもの。

埼玉県学力学習状況調査



コバトン



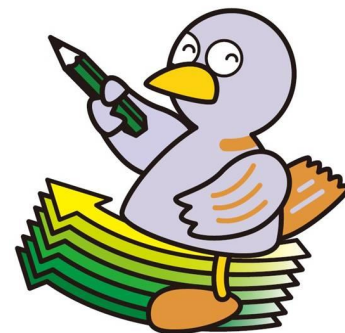
1 概要（1）調査の目的

効果的な施策や指導を見つけるためには…

- ① 正確・客観的にアウトプット（学力等）を把握すること
- ② アウトプットに影響を与えるインプット（施策や指導）
以外の要因を除外すること

が必要。

埼玉県学力学習状況調査



コバトン



1 概要 (1)調査の目的

- ①正確・客観的にアウトプット（学力等）を把握すること
例1：ある年度に50点の生徒が、翌年度に60点になること
→必ずしも学力が向上したとは言えない。

- ②アウトプットに影響を与えるインプット
（施策や指導）以外の要因を除外すること
例1：ある年度に学校Aの平均点50点が、
翌年度に平均点60点になること
→必ずしも、学校の指導で学力が向上したとは言えない。

埼玉県学力・学習状況調査



1 概要 (2)調査の概要

実施日	・平成28年4月14日(火) ※平成27年度に開始。本年度が2回目
調査対象	・県内の公立小・中学校(さいたま市を除く)に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒 ・小学校 708校 149, 227人 ・中学校 356校 146, 323人
調査概要	(1) 児童生徒に対する調査 ア 教科に関する調査 ・小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 ・中学校第1学年 国語、数学 ・中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語 ・出題数は、各学年26~40題 (問題形式は選択肢・短答・記述) イ 質問紙調査 ・学習意欲、生活習慣及び規範意識等に関する事項 ・質問数は、各学年83~102項目 (2) 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教科指導の方法や市町村における独自の研修の実施状況等に関する事項

1 概要 (3) 調査の特徴

【特徴】 一人一人の学力の伸びを把握する

- ・ある時点の学力状況だけでなく、一定期間（一年間）での「伸び」を把握することで、その間の取組や指導との関連性を考察できる。
- ・「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか（学力の経年変化）」という視点を加えている。

平成27年度
の学力



伸び

平成28年度
の学力

この間に何を行ったのか

- ・ 本人の取組
- ・ 学校の取組 等



【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆「学力の伸び」について

児童生徒が、学年が上がることで、新たな知識などを身に付けて成長する中でもとりわけ、以前と比較してより難易度の高い問題に正答できる力を身に付けること

【イメージ】	0.5 + 2.1, 5 × 6 = 12.9.5 ・ 小数のかけ算 ・ かけ算とたし算の混在	高い ↑ 難易度 ↓ 低い	↑ 学力の伸び
12 × 6 = 72 整数のかけ算	91 ÷ 7 = 13 整数のわり算		
小3の学習内容	小4の学習内容		

成長

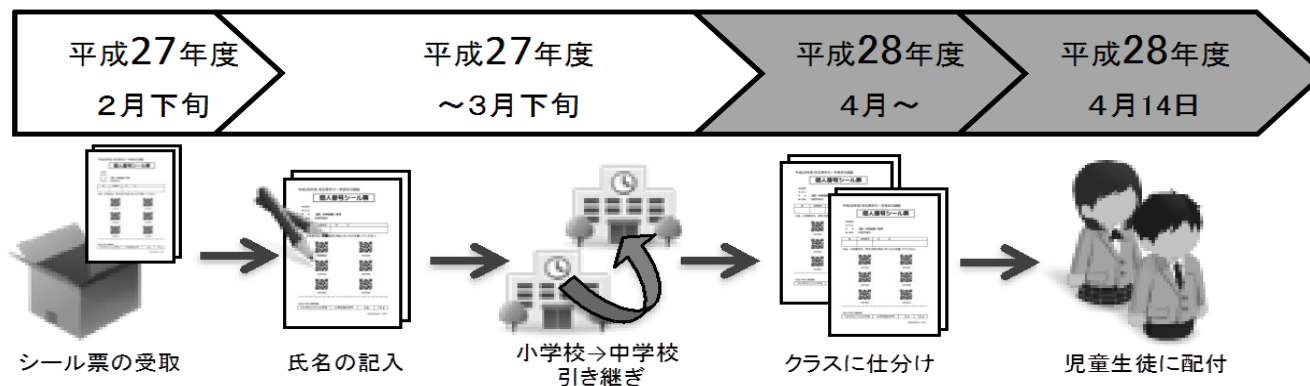
【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆パネルデータ（縦断調査）について

…（縦断調査の概要）

（1）個人を特定する仕組み

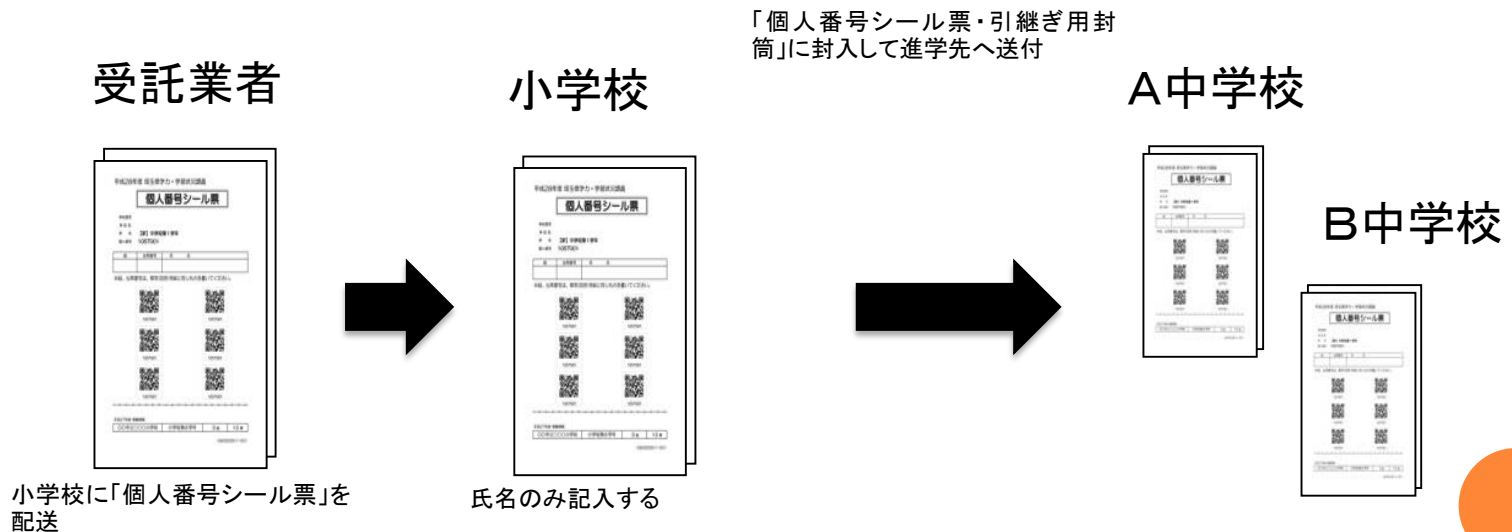
- ・本調査では、複数年にわたり一人一人の結果を継続して把握するため、個人番号シールを使用
- ・児童生徒には一人につき1枚の「個人番号シール票」を配付し、調査ごとに、個人番号シールを解答（回答）用紙に貼付
- ・調査で使用する「個人番号シール票」は学校で保管



【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆パネルデータ（縦断調査） について …（縦断調査の概要）

- (2) 小学校から中学校への「個人番号シール票」の引き継ぎ
- ・平成28年度調査における中学校第1学年が使用する「個人番号シール票」は、平成27年度調査実施時に在籍していた小学校に配付
 - ・小学校で必要な手続きを行った後、小学校から中学校へ「個人番号シール票」を引き継ぐ



【特徴】 一人一人の学力の伸びを把握する

◆パネルデータ（縦断調査） について

※パネルデータを実現する上でのポイント（難しい点）と埼玉県の対応について

①学校における個人番号の取扱いが不十分の場合

- ・学校が、前年度の調査を受けた子供の個人番号を紛失する。
- ・転入等で、前年度の調査を受けた子供の個人番号がわからない。

→調査実施後、委託業者（コールセンター）が学校に追跡調査する。

②小学校から中学校へ個人番号の引き継ぎが不十分の場合

- ・学区外の中学校に進学するなどの理由で、個人番号の引き継ぎがもれる。

→調査実施後に、中学校から小学校へ問い合わせることにより対応する。（委託業者の対応も可）



【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆学力の伸びを測るため、「物差し」を新たに開発

【学力の伸びのイメージ】



H 2 7 小学校 4 年生

学力を測る物差し

中学校第 3 学年

中学校第 2 学年

中学校第 1 学年

小学校第 6 学年

小学校第 5 学年

小学校第 4 学年

平成 3 2 年度 (中 3)



平成 3 1 年度 (中 2)



平成 3 0 年度 (中 1)



平成 2 9 年度 (小 6)



平成 2 8 年度 (小 5)



学力の伸び

平成 2 7 年度 (小 4)

新たに開発



【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆学力の伸びを測るため、「物差し」を新たに開発
「学力を測る物差し」と偏差値との比較①

マラソンに例えると・・・



偏差値は「順位」



県学調の物差しは「タイム」



【特徴】 一人一人の学力の伸びを把握する

◆学力の伸びを測るため、「物差し」を新たに開発

「学力を測る物差し」と偏差値との比較②

偏差値	県学調の物差し
子供や学校等の学力について、全体の中での立ち位置を示す	子供や学校等の学力そのものを示す
全員の偏差値が上がることはない (平均は常に50)	学力が上がった全員に対して結果が学力レベルの上昇として示される
学力向上の取組が成果を上げていても偏差値が上がるとは限らない	学力向上の取組が成果を上げれば、学力レベルは上昇する





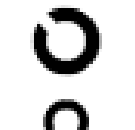


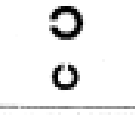
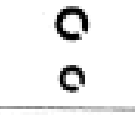






【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆IRTについて

… (IRTの概要)

IRTのポイントは2つに要約できます。

- ① 一つ一つの問題について難易度が示されていること
- ② 様々な難易度の問題を多く出題し、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断すること

0.1				→	$1 + 3 = ?$
0.2				→	$\frac{1}{4} + \frac{2}{5} = ?$
0.3				→	$\sqrt{5} + \sqrt{20} = ?$
0.4					
0.5					

視力を測るように学力を測定します



【特徴】 一人一人の学力の伸びを把握する

◆IRTを使った問題の難易度の調整について

…小学校4年生から中学校3年生までの各問題の難易度を示す仕組み

【イメージ】

※ 調査A、B、Cのそれぞれの調査問題を、難易度順に整列

調査A【27年度小4】

問1 問2・・・問10 問11 ←・・・問29 問30

調査B【27年度小5】

問1 問2・・・問10 問11・・・問29 問30

調査C【28年度小5】

問1 問2・・・問10 問11・・・問31 問32

易しい問題

難しい問題

調査Aの問11と
調査Bの問10は
全く同じ問題を出題

調査Bの問29と
調査Cの問31は
全く同じ問題を出題



【特徴】一人一人の学力の伸びを把握する

◆IRT活用上のポイントについて

…※IRTを実現する上でのポイント（難しい点）

①プレ調査なしで実施

- ・プレ調査を実施した方がよいのだが…。(予算と時間)

②ルーブリックをつくっていない

③調査問題は原則非公開

- ・この方式では、一回使用した問題を再利用して学力を測定。
(調査問題を公開すると次に使用するときには正確な学力の測定が困難)
- ・報告書で問題を、復習シートで類似問題を一部公開
(実際の問題で復習できないとの現場の声あり)

平成28年度埼玉県学力学習状況調査報告書

(平成28年4月末集)

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

平成28年11月
埼玉県教育委員会

埼玉県学力・学習状況調査 (小学校)

復習シート 第4学年 算数

姓	名	学	年

〔教と針算〕を問う問題

1 次の計算をしなさい。

① 埼玉県学力・学習状況調査 ② (1), ②埼玉県学力・学習状況調査 ③ (1), ②埼玉県学力・学習状況調査 ④ (1), ②埼玉県学力・学習状況調査 ⑤ (1), ②埼玉県学力・学習状況調査

(1) $243 - 65 = 178$ (2) $0.5 + 0.3 = 0.8$

(3) $6400 \div 16 = 400$ (4) $32 - 2.8 = 29.2$

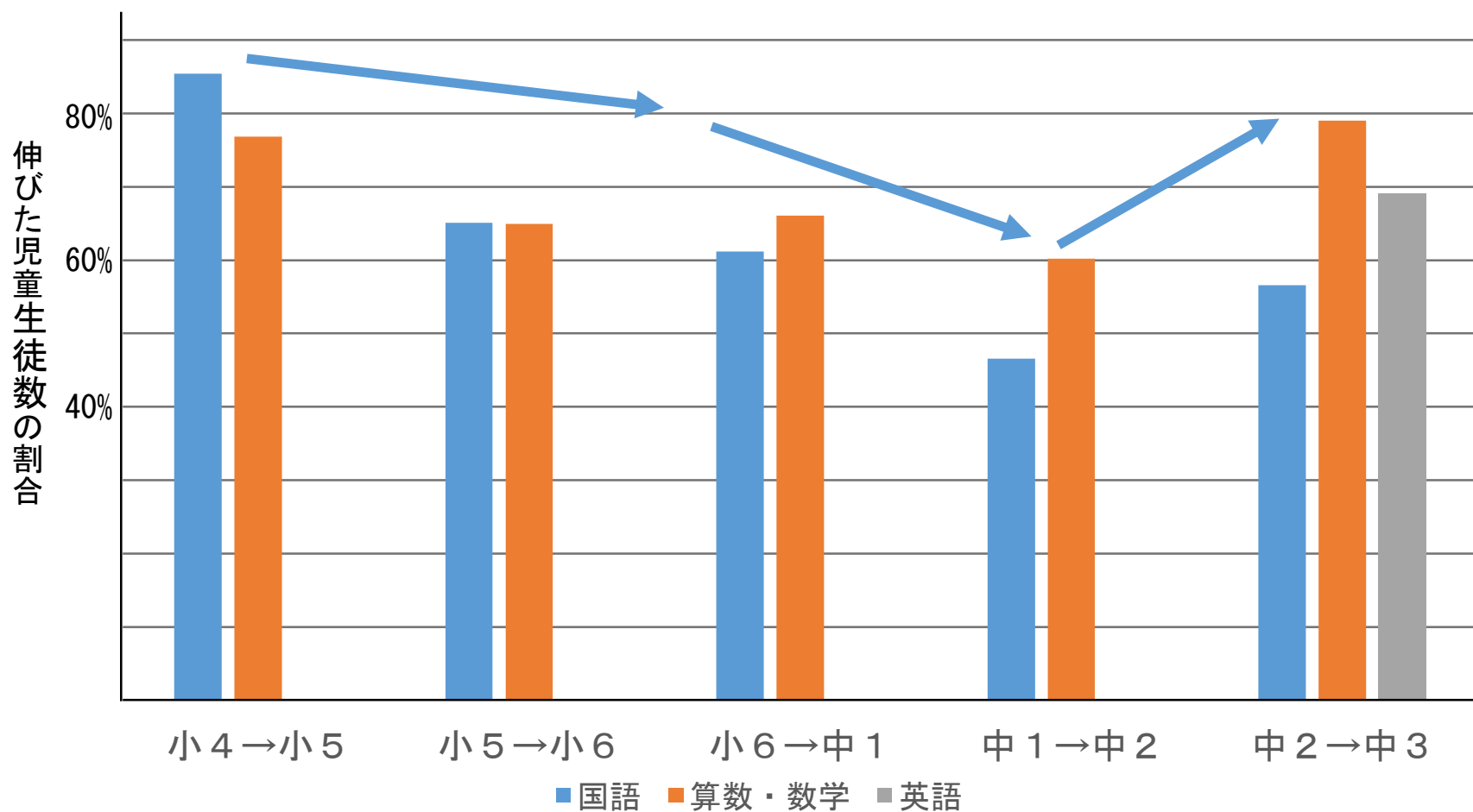
5 五千二百八十九千六百二十 を数字で書きましょう。 5289620

6 あめが17こあります。7人13こずつ(1人1こ)は、あと何こ必要ですか。下のア～エの中からとらひましょう。 1000000

ア 3こ イ 4こ ウ 5こ エ 6こ

2 調査結果（1）「学力の伸び」の状況

中学校第1学年の1年間で、特に伸び悩む生徒が出やすい



中学校第1学年の伸び悩み（例）

○中学校の学習になり、内容がより複雑で、抽象的になるため、困難を感じる生徒が増えると推測

【具体的な課題例 比例の問題】

小学校の内容

中学校の内容

3 次の問題に答えましょう。

(1) 120kmの道のりを、2時間で走る自動車の速さは時速何kmですか。

式

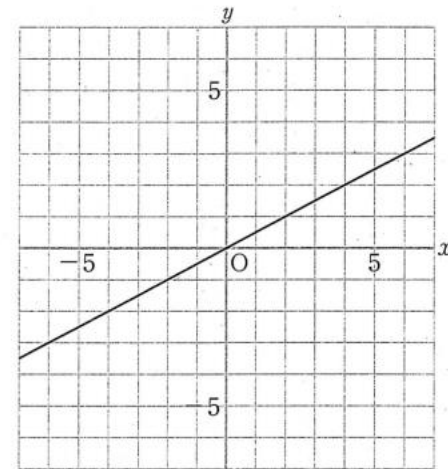
答え 時速 km

(2) 時速80kmで走る電車が、3時間に進む道のりは何kmですか。

式

答え km

(3) 次の図の直線は、比例のグラフを表しています。



x の変域が $2 \leq x \leq 6$ のとき、 y の変域はどのようにになりますか。
下のそれぞれの に当てはまる数を求めなさい。

$\leq y \leq$

★小・中学校の学習の違いを意識した指導が重要

(2)「学力のレベル」の分布 国語

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						2%
レベル11					2%	5%
レベル10				7%	7%	14%
レベル9			9%	11%	19%	27%
レベル8		24%	29%	32%	33%	27%
レベル7	35%	26%	26%	28%	26%	15%
レベル6	18%	25%	24%	16%	10%	10%
レベル5	22%	14%	12%	6%	3%	
レベル4	13%	8%	1%未満	1%未満		
レベル3	12%	3%	1%未満			
レベル2	1%未満	1%未満				
レベル1	1%未満					

※ 数値は、学年ごとに各レベルに属する児童生徒の人数を全受検者数で割った値

(2)「学力のレベル」の分布

算数数学

	小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
レベル12						7%
レベル11					4%	5%
レベル10				9%	8%	14%
レベル9			12%	11%	14%	18%
レベル8		14%	11%	18%	21%	18%
レベル7	19%	22%	24%	22%	21%	18%
レベル6	22%	25%	20%	18%	16%	20%
レベル5	24%	20%	18%	12%	18%	
レベル4	16%	11%	9%	10%		
レベル3	10%	5%	6%			
レベル2	5%	2%				
レベル1	3%					

※ 数値は、学年ごとに各レベルに属する児童生徒の人数を全受検者数で割った値

(2)「学力のレベル」の分布 英語

	中学校2年生	中学校3年生
レベル12		11%
レベル11	12%	13%
レベル10	11%	14%
レベル9	20%	21%
レベル8	20%	19%
レベル7	20%	14%
レベル6	13%	9%
レベル5	5%	

※ 数値は、学年ごとに各レベルに属する児童生徒の人数を全受検者数で割った値

(3)個人結果票

【小学校5年生の例】

質問紙調査の結果 ～規律ある態度の達成目標～

「規律ある態度」を身に付けることで・・・

- ・集中して授業に取り組めるようになり、授業がよくわかるようになります。
- ・ルールやマナーが身に付き、学校の活動がもっと楽しくなります。
- ・自分も周りの人も、気持ちよく生活できるようになります。

達成目標とその達成状況



☆は選択肢の「よくなる」、「たいたいできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくなる」、「たいたいできる」を選択したことをあらわしています。

達成目標		H28
けじめのある生活ができる	1 時刻を守る 通学班の集合時やくや登校時こくを守ることができていますか	☆
	2 身の回りの整理整頓をする めいだはき物のかかとをそろえることができますか 机やロッカーの中の整理整頓をすることができますか	☆
礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする 名前をよばれたら「はい」とはっきり返事することができますか	☆
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける 時と場におうじた正しい言葉づかいができていますか 相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができていますか	☆
約束やまもりを守ることができる	5 学習のまもりを守る 学習の準備を整え、授業にのぞむことができますか	☆
	6 生活のまもりを守る 先生の話や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか 人の集まる場所では静かにし、しせいを正すことができますか 進んでそうじをし、学校をきれいにすることができますか	☆

ご家庭へのメッセージ

ご家庭で一人一人の力を確実に伸ばすためには・・・

ご家庭では調査の結果を見て、お子さんの「よいところ」、「努力が必要なところ」を把握し、一人一人のお子さんに合った「目標設定」をし、「家庭学習の習慣化」を図ることが効果的です。

また、お子さんと、「時間を守る」、「あいさつをする」など、ルールやマナーを守ることの大切さについて、あらためて話し合い、確認することが重要です。

お子さんのやる気を高めるには、調査の結果を見て、よかったところや伸びたところをほめて、お子さんたちに自信を持たせると効果的です。

自由記述らん

平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票【小学校5年生】

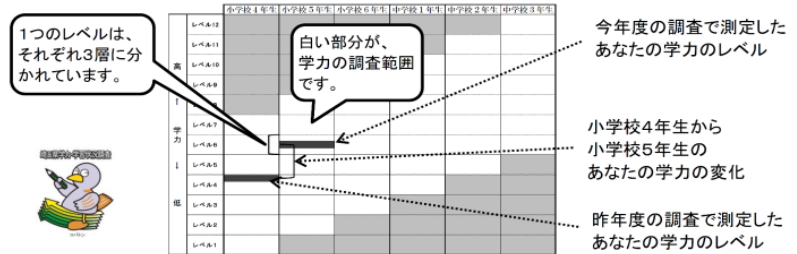
学校名	個人番号	組	出席番号	性別	名前
-----	------	---	------	----	----

埼玉県学力・学習状況調査を通して

小・中学校の段階は、子供たちの「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む大切な時期です。お子さんたちを見ると、「伸びる時期」、「伸びるスピード」は様々ですが、一人一人はしっかりと成長しています。私たちは、お子さんたちが現在の学力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいと考えています。そして、自信を持ったお子さんたちが、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしているような教育を進めていきたいと考えています。

教科に関する調査結果(2～3ページ)の見方

この調査では、各学年における学力のレベルがわかります。レベルが上がるほど難しい問題を解く力があります。過去の結果と比べることで、「学力の伸び」を確認できます。



それぞれの学力のレベルで正解できる問題の例

	国語	算数
レベル8	「文章の構成の特徴として適切なものを選ぶ」「修飾語と被修飾語を選ぶ」	「示された計算の工夫を使って、異なる数値の計算の方法を説明する」「同じ大きさの正方形を重ねてはたき、全体の面積を求める」
レベル7	「自分の考えを、理由をあげて二段落構成で書く」「同じ別の異なる字の中から文脈に合うものを選ぶ」	「2つの量を比べて、変えているところの人数を求める」「身近なものの量感として適切なものを選ぶ」
レベル6	「文中にあてはまる適切なことわざを選ぶ」「文中の要点をまとめたものを選ぶ」	「わり算を利用して文章題を解く」「正方形とひし形の性質を理解し、適切な特徴を選ぶ」
レベル5	「漢字を音訓索引で調べるとき条件として適切なものを選ぶ」「説明文の語順を対比させ、あてはまる言葉を書く」	「折れ線グラフから気温の差が最も大きい月がわかる」「立方体の異なる面について適切なものを選ぶ」
レベル4	「話題に関する事実を文中から書きぬく」「熟語の説明として適切なものを選ぶ」	「もたてて変わる2つの数量の表を適切に読み取る」「面方体の展開図をみて重なる辺がわかる」
レベル3	「同じ意味で使われている言葉を選ぶ」「登場人物の行動の理由を考えて書く」	「分度器で180度より小さい角の大きさを求める」「簡単な小数のひき算の計算をする」
レベル2	「文中にあてはまる擬態語として適切なものを選ぶ」「両音の漢字の中から文脈に合うものを選ぶ」	「1度より大きい物の位の数がわかる」「簡単な分数のたし算の計算をする」

学習に関するアドバイス

今の学力の状況や、今後、どのような学習をすれば、あなたの学力が上がるのかを記載しています。

- ※ 上記で示す学力は、この調査で測定したものであり、お子さんの学力のすべてではありません。
- ※ 埼玉県学力・学習状況調査(保護者用フリーフレット、問題概要、復習シートなど)については、県ホームページをご覧ください。

県ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

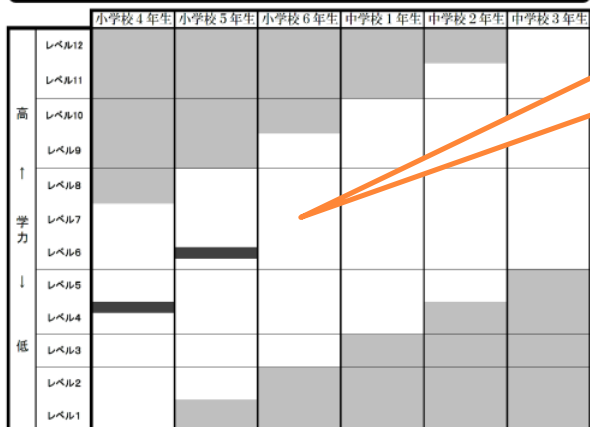
(3) 個人結果票 【小学校5年生の例】

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル6」まで伸びました。



学習に関するアドバイス

あなたの国語の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、よさをさらに伸ばせよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。
今後、現在の学年で、「述語によって分けられる主語・述語の関係から適切なものを選ぶ」「心情表現が表す内容を選ぶ」のような問題を解けるように学習することで、さらに困難度の高い問題に解答できるようになり、学力を伸ばすことができます。

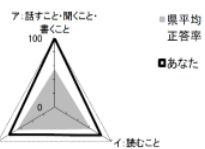
①学力の変化について

②学習のアドバイスについて

③教科の領域別正答率について

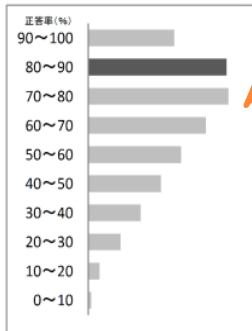
教科の領域別正答率

	あなたの正答数	総問数	あなたの正答率(%)	県平均正答率(%)
ア	3	4	100.0	55.1
イ	12	9	82.1	64.4
ウ	10	17	80.0	66.7
全体	25	30	80.6	64.5



あなたの正答率は実線(◇)、県平均正答率は網掛け(○)で表しています。

県全体の正答率分布

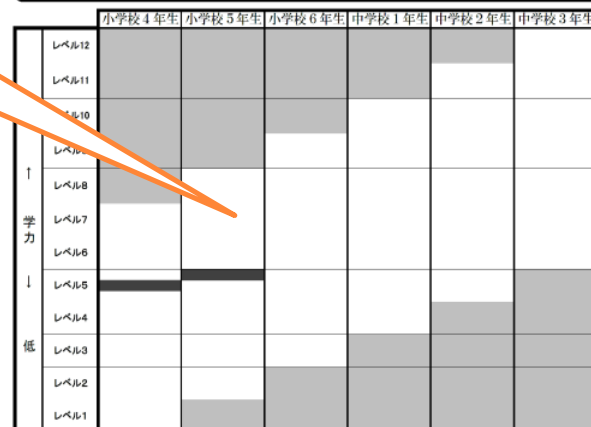


あなたの正答率は、県全体の正答率分布の ■ に含まれています。

算数

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル5」の中で伸びがありました。

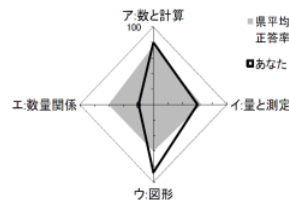


学習に関するアドバイス

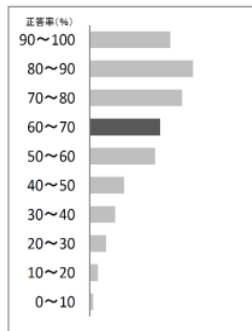
あなたの算数の学力は、昨年度1年間の学習により、着実に伸びています。自分の努力に自信を持ち、今後も学習に取り組んでいきましょう。授業への取り組み方や学習習慣を見直し、改善することで、さらに大きく伸びることが期待できます。
今後、現在の学年で、「比例の関係において、2つの数量の特徴を書く」「合同な三角形をかくための条件がわかる」のような問題を解けるように学習することで、さらに困難度の高い問題に解答できるようになり、学力を伸ばすことができます。

教科の領域別正答率

	あなたの正答数	総問数	あなたの正答率(%)	県平均正答率(%)
ア	8	16	80.0	75.7
イ	6	5	60.0	65.3
ウ	7	5	87.5	60.4
エ	1	6	20.0	60.8
全体	22	32	66.7	68.9



県全体の正答率分布



(3) 個人結果票 【小学校5年生の例】

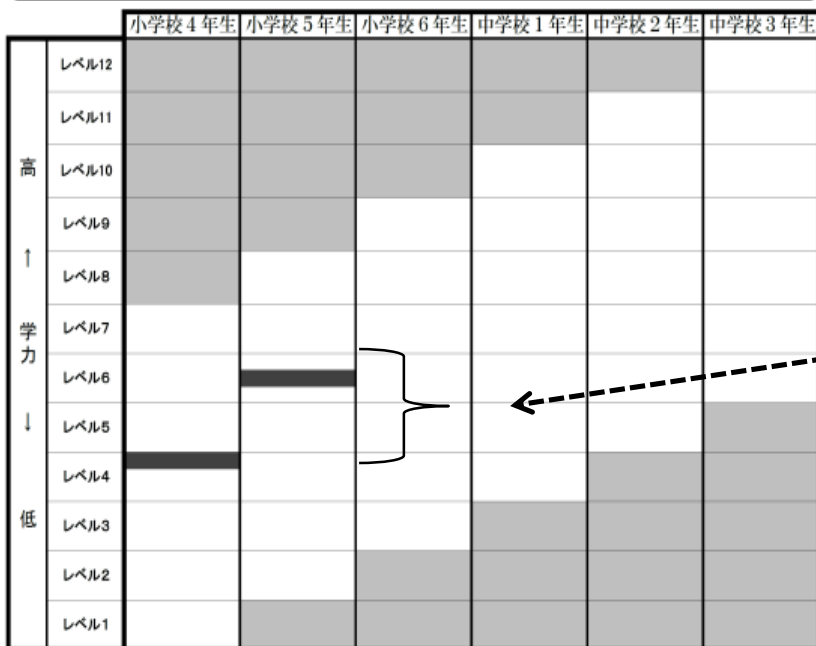
① 学力の変化について

国語

教科に関する調査結果

今までの学力の変化

あなたの学力は、「レベル6」まで伸びました。



- ・ 学力のレベルをバーの位置で表している。
- ・ 学力のレベルは1～12段階あるが、測定は各学年7レベルの間で行

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11
中学校3年生	レベル6～レベル12

- ・ 1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中で、**モジュールステップの値が表す。**

- ・ 前学年のバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かる。

★学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」を把握

(3)個人結果票 【小学校5年生の例】

②学習のアドバイスについて

あなたの国語の学力は、昨年度1年間の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、よさをさらに伸ばせるよう、今後も授業などの学習活動に積極的に取り組んでいきましょう。

今後、現在の学年で、「述語によって分けられる主語・述語の関係から適切なものを選ぶ」「心情表現が表す内容を選ぶ」のような問題を解けるように学習することで、さらに困難度の高い問題に解答できるようになり、学力を伸ばすことができます。

学力の状況
・学習習慣

今後の学習
アドバイス

【上段】・・・「学力の伸び」についてのコメントや授業などへのアドバイスを記載。

【下段】・・・さらに学力を伸ばすためには、現在の学年でどのような学習に力を入れることが効果的であるかを記載。

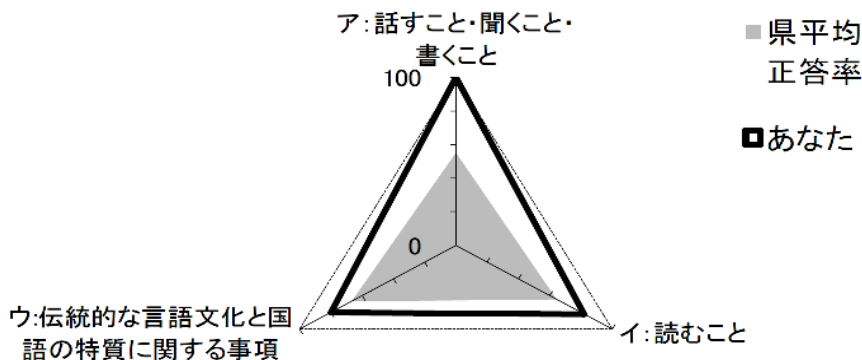
★子供の「よいところ」「努力が必要なところ」を把握

(3)個人結果票 【小学校5年生の例】

③教科の領域等別正答率について【参考として】

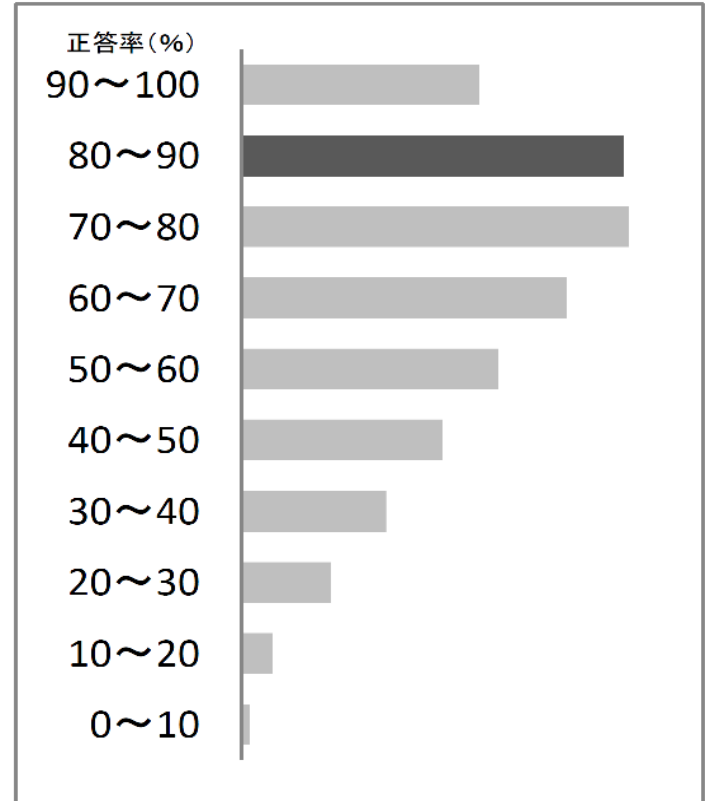
教科の領域等別正答率

	あなたの 正答数	設問数	あなたの 正答率(%)	県平均 正答率(%)
ア	4	4	100.0	55.1
イ	8	9	88.9	64.4
ウ	14	17	82.4	66.7
全体	26	30	86.7	64.5



あなたの正答率は実線(◇)、県平均正答率は網掛け(◆)で表しています。

県全体の正答率分布



あなたの正答率は、県全体の正答率分布の に含まれています。

3 分析（1）委託事業

専門的なデータ分析の実施

埼玉県学力・学習状況調査のデータ活用事業

○ **埼玉県の学力向上のため、全国唯一のデータを徹底的に分析**

→ **学力向上に効果的な指導方法の明確化**

○ **大学や研究機関などを公募し、民間の力を活用**

・委託先

学校法人慶應義塾 慶應義塾大学SFC研究所

・委託期間

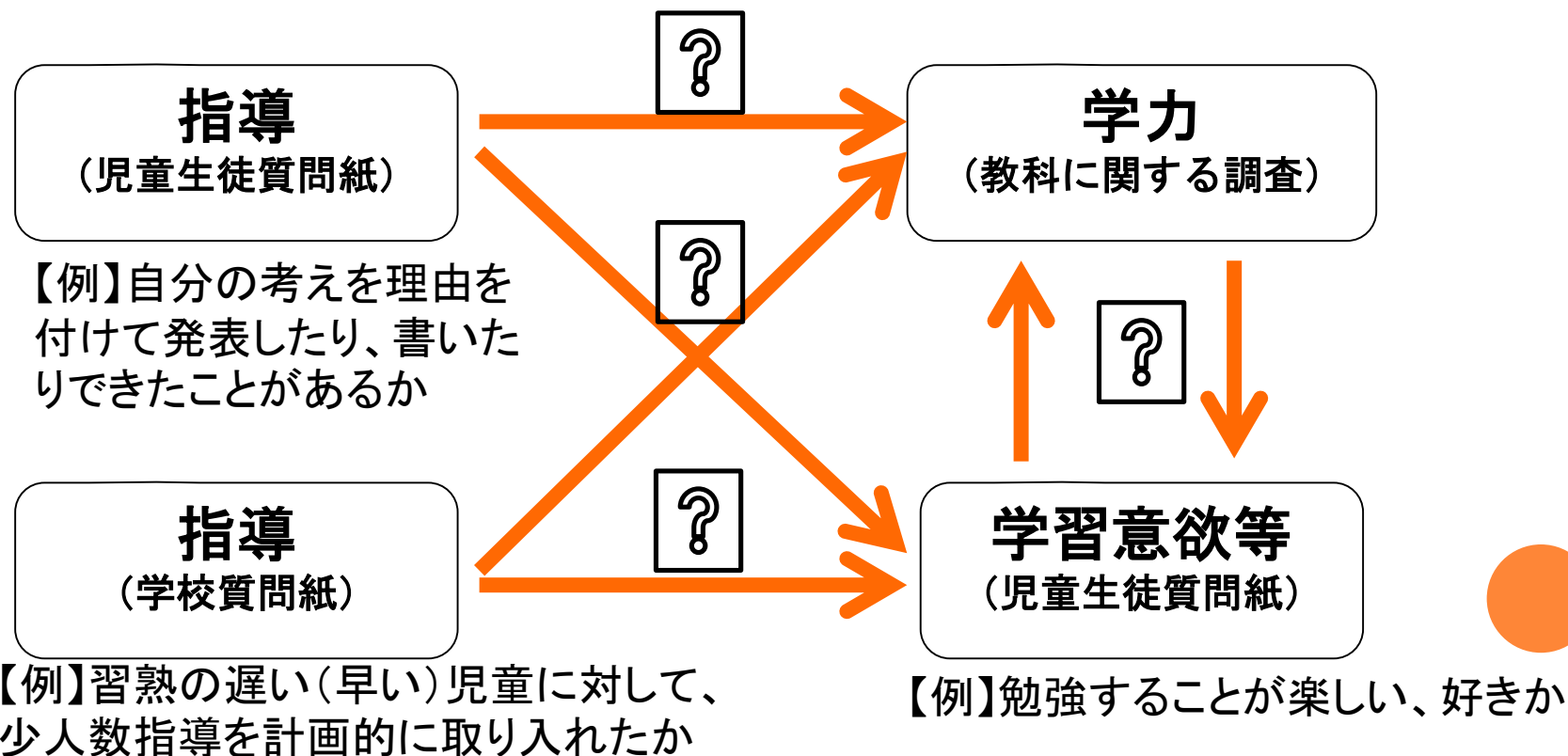
平成28年8月10日～平成29年3月31日



3 分析（1）委託事業

研究者による分析で見えてくる可能性のある要素
（市町村単位、学校単位、教員単位）

- ・指導と学力の関係
- ・指導と意欲の関係



(2)市町村・学校における分析 ①概要

○学校の実態把握

↓ (分析支援プログラムの活用)

○学力向上に係る課題を踏まえた仮説の設定



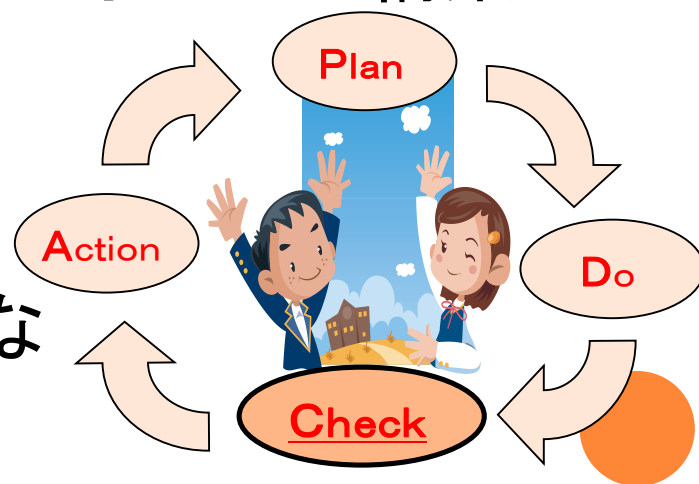
○仮説に基づく課題解決のための手立ての構築



○具体的な実践と検証



○さらなる学力向上に係る新たな
学校課題の設定



(2)市町村・学校における分析 ②分析支援プログラム

埼玉県学力学習状況調査



クロス集計や関連探索ができます。

埼玉県学力・学習状況調査 学校用分析支援プログラム
平成28年度 中学校2年生用メニュー

メニュー画面

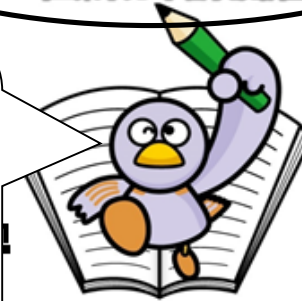
○ファイルを開くと、すぐにメニュー画面が立ち上がります。

○使いたい機能をクリックで選択しましょう。

シート構成	
(1)	メニュー
(2)	①クロス集計(「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目)
(3)	②クロス集計(学力の階層と児童生徒質問紙の項目)
(4)	③クロス集計(児童生徒質問紙の項目と児童生徒質問紙の項目)
(5)	④関連探索
(6)	⑤任意項目入力シート

埼玉県学力学習状況調査

これらを活用して、
自校の子供たちの課題を見つけ、学力向上につなげましょう！



コバトン

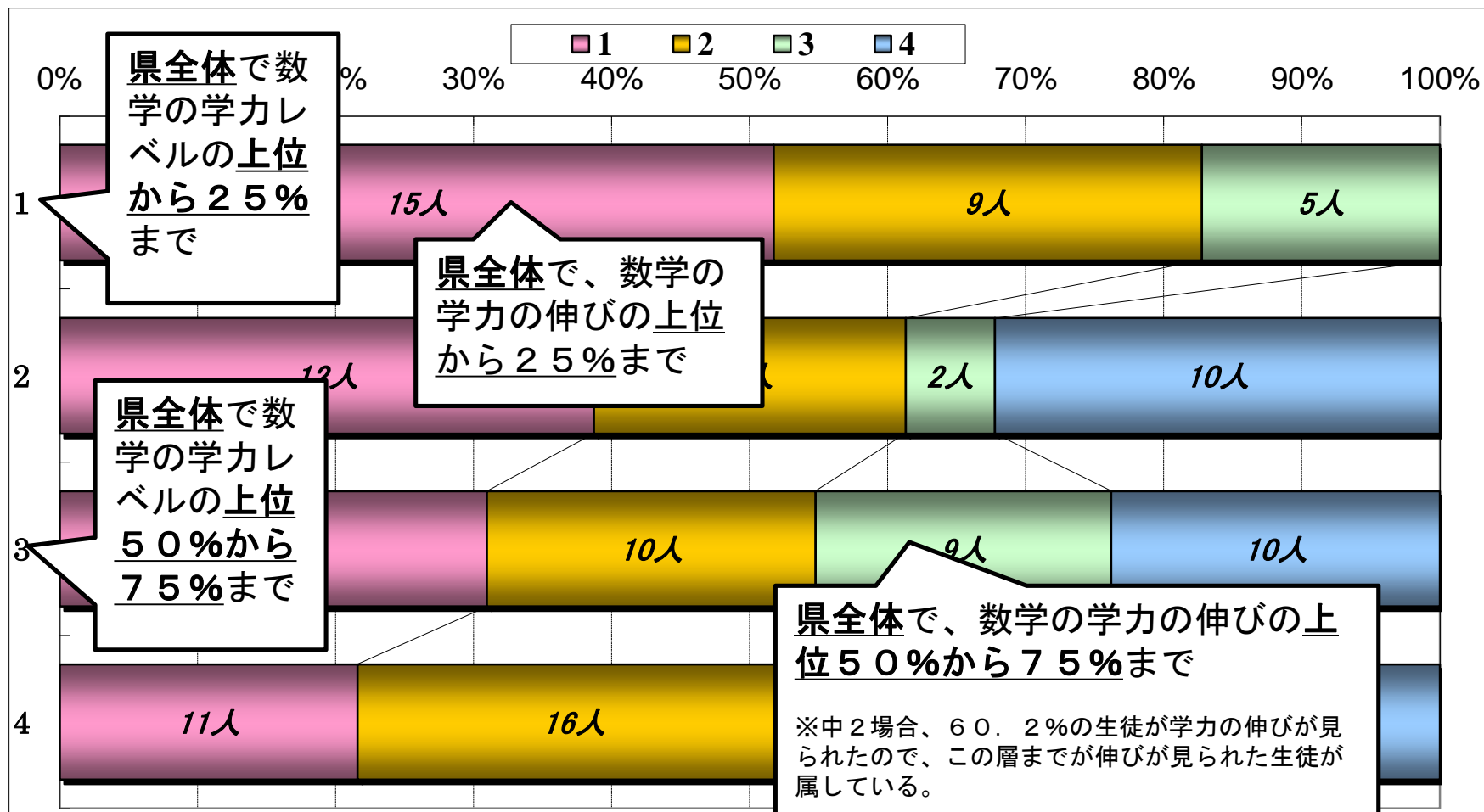
(2)市町村・学校における分析 ②分析支援プログラム

クロス集計（学力の伸びの階層編）

縦軸：学力階層_数学

横軸：学力の伸びの階層_数学

A 中学 2 年生の例



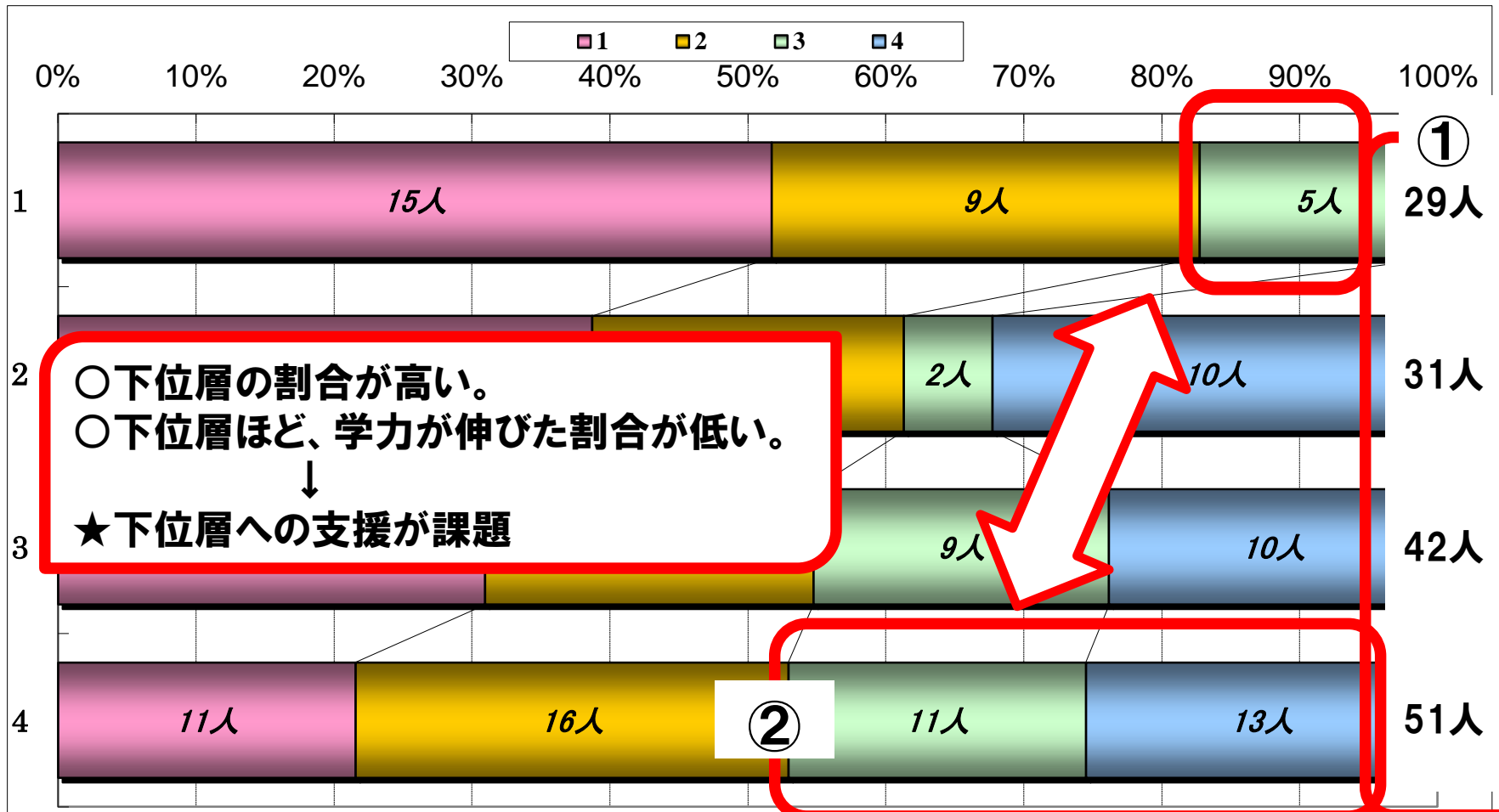
(2)市町村・学校における分析 ②分析支援プログラム

クロス集計（学力の伸びの階層編）

縦軸：学力階層__数学

横軸：学力の伸びの階層__数学

A 中学 2 年生の例

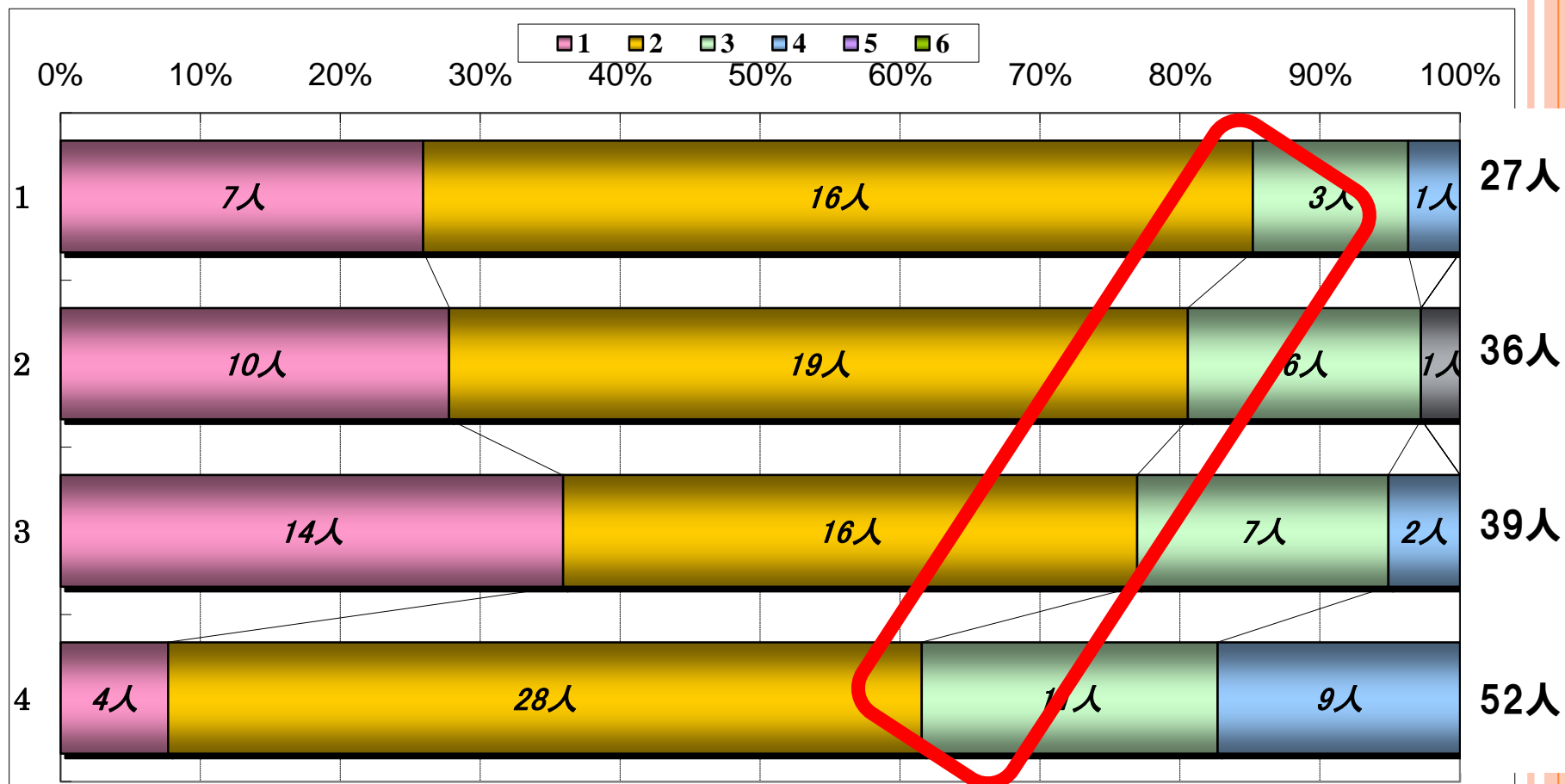


②クロス集計（学力の階層編）

A 中学2年生の例

縦軸：学力階層__国語

横軸：あなたの中学校1年生の時の国語の授業では、次のようなことがどれくらいありましたか。【自分の考えを理由を付けて発表したり、書いたりできたこと】



(2)市町村・学校における分析 ②分析支援プログラム

	視 点	分 析	方 法
自校の 分析	自校の 学力	<ul style="list-style-type: none"> ●「学力の伸び」と学力層（上位層・中位層・下位層）の関連・分布割合 ●教科に関する調査結果 ●質問紙調査結果 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム ●帳票【教科】 <ul style="list-style-type: none"> ・解答状況 ・平均正答率（「学力の伸び」を含む） ●帳票【質問紙】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒質問紙調査集計データ ・学校質問紙回答状況
	学力と 指導法	<ul style="list-style-type: none"> ●「学力の伸び」と児童生徒質問紙の「学習指導」に関する項目との相関の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム
	学年・ 学級経営	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒質問紙「学級生活の受け止め」と「学力の伸び」との相関の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ●「学力の伸び」と児童生徒質問紙の「家庭学習・生活習慣等」に関する項目との相関の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム
家庭へ の啓発	学力と 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ●「学力の伸び」と児童生徒質問紙の「家庭学習・生活習慣等」に関する項目との相関の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム
その他	学校独自	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒質問紙の各項目のクロス集計による分析 	<ul style="list-style-type: none"> ●分析支援プログラム

(2)市町村・学校における分析 ③分析を行う際の留意点

●分析する際の解釈について（因果関係と相関関係）

「1か月に、何冊くらいの本を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問項目について、本を多く読んでいる児童生徒ほど、学力が高いようである

たくさん本
を読ませる。



学力が
高くなる。

と、捉えて指導する。

解釈が間違っている、あるいは、拡大解釈している可能性

この場合、「本をたくさん読ませること」と「学力が高い」こととの間には、何らかの「相関関係」があることは認められます。

しかし、「因果関係」が成り立つとは限りません。

たくさん本
を読む子
供は....

文字をよく読むこ
とに慣れている。

調査問題の指示文や文章
をきちんと読み取れる。

結果と
して、
学力が
高くなる。

読書時間を生み出
すため、計画的に
生活する。

学習も計画的に行えるよ
うになる。

4 課題と今後の展望

○十分に把握できていないデータ①
(インプット)

- 教員に関する情報
- 学級経営に関する情報
- 学校経営に関する情報



4 課題と今後の展望

○ 十分に把握できていないデータ②
(アウトプット)

- ・ 問題の幅（タイプ）が限られている。



4 課題と今後の展望

○分析を踏まえた対応として考えられるもの

- ・ 対話的で主体的で深い学びの推進
- ・ 課題のある児童生徒への対応
(①社会経済上、②発達上、③その他)
- ・ 指導規模による影響 (国研)



5 おわりに

○調査結果を分析し指導に活かす

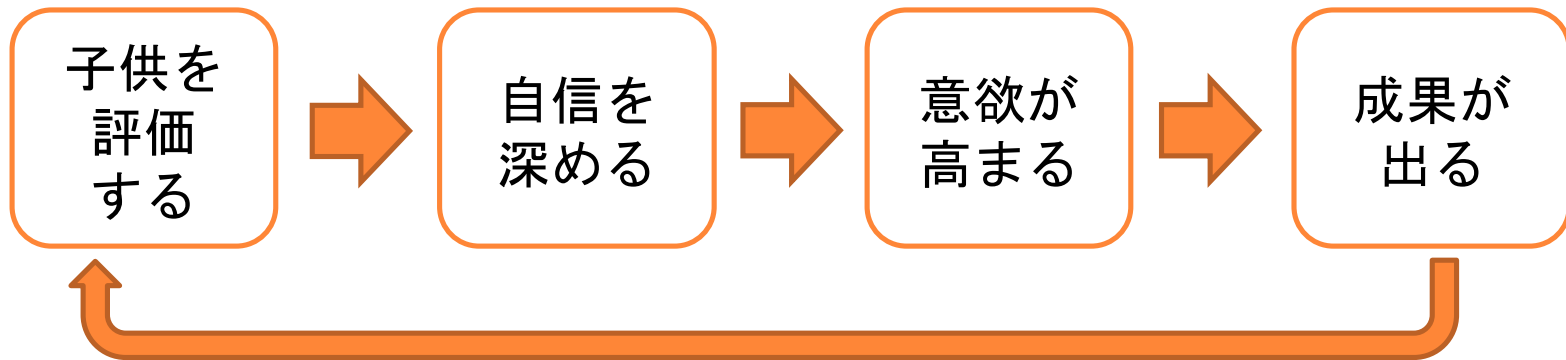
- ・ 埼玉県学力・学習状況調査で示す、子供の「学力の伸び（変化）」と「学校や教育委員会の取組の変化」の関係を検証することで、今まで以上に取組の効果を確かめることができる。

○ポイント

- ・ 同一の子供の集団の調査結果を使う
- ・ 何らかの取組や改善の前後の調査結果を使う



○子供たちが自分の実力を知り、「どれだけ自分が**伸び**たか」 を実感し、**自信を深め、さらなる成長へ。**



- 上記のスパイラルを起こすことが、一人一人のよさを伸ばす原動力に。
- 「何ができなかったのか」「どのような力が身に付いていないのか」という視点に加え、「どのような取組がどの程度の成果を上げたのか」という視点を。

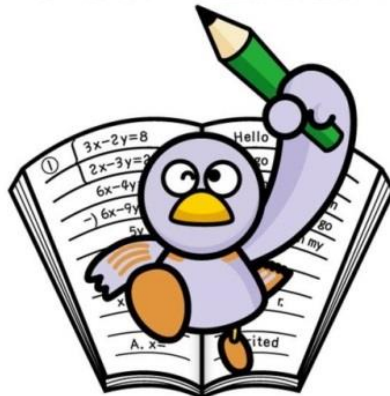


- ・ 先生方が自信を持って、子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす指導の充実を



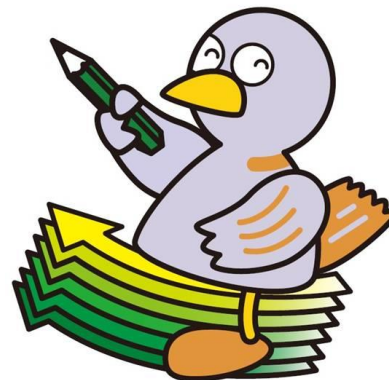
御清聴ありがとうございました

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン

埼玉県学力・学習状況調査



コバトン

